

31年2月分 木材チップの荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成31年 2月1日～ 31年2月10日

2. 調査実施方法

全国の木材チップ工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
2月分の回答企業数は8社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)=[「増加」の評価を行った回答の割合]×2+[「やや増加」の評価を行った回答の割合]-[「減少」の評価を行った回答の割合]×2-[「やや減少」の評価を行った回答の割合]÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) チップ用国産原木の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		31/2月	3月	4月
入荷動向	スギ・ヒノキ	8.3	△ 8.3	△ 16.7
	マツ	△ 28.6	△ 50.0	△ 57.1
	広葉樹	△ 12.5	△ 25.0	△ 25.0
消費動向	スギ・ヒノキ	20.0	0.0	0.0
	マツ	△ 41.7	△ 41.7	△ 41.7
	広葉樹	△ 21.4	△ 14.3	△ 14.3
在庫動向	スギ・ヒノキ	16.7	△ 8.3	△ 16.7
	マツ	△ 28.6	△ 35.7	△ 42.9
	広葉樹	△ 6.3	△ 31.3	△ 31.3

・スギ・ヒノキチップ用原木の入荷動向は2月の増加から3月、4月は減少に。マツ、広葉樹とも3カ月連続減少。
・スギ・ヒノキの消費動向は2月の増加から3月、4月は横ばいに。マツ、広葉樹とも3カ月連続減少。
・スギ・ヒノキの在庫動向は2月の増加から3月、4月は減少に。マツ、広葉樹とも3カ月連続減少。

(2) チップ用国産原木購入価格動向 Weight. D. I.

品目	31/2月	3月	4月
スギ・ヒノキ	10.0	10.0	0.0
マツ類	8.3	8.3	0.0
広葉樹	0.0	0.0	0.0

・チップ用国産原木の購入価格動向はスギ・ヒノキ、マツ類は一部地域でやや強含み。広葉樹は横ばい推移。

モニターからのコメント

(原木荷動き)

・バイオマス発電との原木仕入競争激化（東北）。
・森林再生事業に伴う原木の入荷によりスギ・ヒノキ、マツ類、広葉樹ともやや増加。在庫はスギ0.5⇒1.0カ月、マツ1.0⇒1.0カ月、広葉樹2.5⇒2.5カ月（東北）。
・メガソーラー設置のための広葉樹の伐採木が多く入荷してきている（関東）。
・先月より針葉樹丸太の入荷が若干増加。素材業者は針葉樹林で施業を行っているため広葉樹の入荷は減少が続いている。針葉樹丸太の入荷増に伴い燃料チップの消費も増加。広葉樹は消費減少。在庫は横ばい（中国）。
・積雪の影響も思ったほど無く原木入荷は安定。翌月、翌々月とも天候の心配はないと思うが、原木の入荷増量の見通しは無く横ばい（四国）。
・広葉樹原木の仕入は困難な状態が続いている。広葉樹の仕入・消費・在庫とも横ばい推移。スギ・ヒノキ、マツ原木は基本的に仕入なし（九州）。
・針葉樹・広葉樹原木ともに入荷順調。製紙会社からの要請で2～3月はスギ・ヒノキのチップを増産中。その分広葉樹チップは減産。原木在庫は増減なし（九州）。

(原木価格)

・スギ・ヒノキ、マツ類はバイオマス発電用の燃料ヘシフトのため少しずつ上昇気味。広葉樹は横ばい（東北）。
・変動なし（中国）。
・変動ナシ（四国）。
・変化なし（九州）。

31年2月分 木材チップの荷動き・価格先行き動向調査 2

4. 調査結果の概要

(1) 木材チップの荷動き動向 Weight. D. I.

品目		31/2月	3月	4月
生産動向	スギ・ヒノキ	10.0	0.0	△ 20.0
	マツ類	△ 41.7	△ 41.7	△ 41.7
	広葉樹	△ 28.6	△ 14.3	△ 7.1
出荷動向	スギ・ヒノキ	8.3	△ 8.3	△ 16.7
	マツ類	△ 35.7	△ 42.9	△ 42.9
	広葉樹	△ 12.5	△ 6.3	0.0
在庫動向	スギ・ヒノキ	12.5	△ 12.5	△ 12.5
	マツ類	△ 40.0	△ 50.0	△ 50.0
	広葉樹	△ 25.0	△ 25.0	△ 25.0

・スギ・ヒノキ木材チップの生産動向は2月の増加から3月は横ばい、4月は減少に。マツ類、広葉樹とも3カ月連続減少。
 ・スギ・ヒノキの出荷動向は2月の増加から3月、4月は減少に。マツ類は3カ月連続減少。広葉樹は2月、3月の減少から4月は横ばいに。
 ・スギ・ヒノキの在庫動向は2月の増加から3月、4月は減少に。マツ類、広葉樹とも3カ月連続減少。

(2) 木材チップ出荷価格動向(自社サイロ下渡し)W

品目	31/2月	3月	4月
スギ・ヒノキ類	0.0	0.0	0.0
マツ類	0.0	0.0	0.0
広葉樹	0.0	0.0	0.0

・木材チップの出荷価格動向はスギ・ヒノキ、マツ類、広葉樹とも横ばい。

モニターからのコメント

(木材チップ荷動き)

- ・スギ・ヒノキ、マツ類は入荷量減少気味のため出荷量も減少。広葉樹は入荷量の増加に伴い微増（東北）。
- ・各製紙会社とも針葉樹・広葉樹チップを問わず増量して欲しいとの要請あり（関東）。
- ・燃料用チップは丸太入荷に伴い生産増加。広葉樹は製紙用チップが生産減少（中国）。
- ・天候の心配ないと思うが、
- ・原木仕入が横ばいにて生産見通しも横ばい。製紙、ボード、燃料用等の受入れ制限がない。増量納入はできるが、仕入が横ばいにて出荷・在庫も横ばいを維持（四国）。
- ・広葉樹原木の入荷に応じた生産・出荷。在庫は置かない（九州）。
- ・針葉樹は生産・出荷とも増産している。広葉樹はその分減産。チップ在庫はおいていない（九州）。

(木材チップ価格)

- ・値上げ要請しているが回答なし（関東）。
- ・変動なし（中国）。
- ・変動ナシ（四国）。
- ・横ばいに推移（九州）。
- ・変化なし（九州）。